

事業活動実績報告書

施 設 名	ルンビニー幼稚園
教 育 理 念	幼児の心身の望ましい発達を助長し、宗教的情操の涵養をはかり、園内生活を通して協同自主の精神及び善良な生活習慣を養う。

1 事業名	心身ともに健康な身体づくり
2 実施期間	令和 7 年 4 月 6 日 ～ 令和 8 年 3 月 7 日

3 取組概要	（取組日）令和 7 年 4 月 14 日 ～ 令和 7 年 7 月 14 日 （実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること 幼児教育、運動に特化した講師を迎え「健康指導」という名目で運動遊びを指導 1 学期 計12回 進級、入園した子どもたちの心情に寄り添いながら、柔軟な心と体づくりをねらいにし整列、柔軟体操、マット運動器具、運動を中心に一人ひとりの自己実現と意欲を促す体操内容を実施 
	（取組日）令和 7 年 8 月 25 日 ～ 令和 7 年 8 月 28 日 （実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること プール指導 4回 子ども達自身が、心身の健康を自覚させることをねらいとし、季節を感じる運動遊びとしてプール指導を行う 
	（取組日）令和 7 年 9 月 8 日 ～ 令和 7 年 12 月 15 日 （実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること 2学期 計13回 運動会という大きな行事を意識しながら、クラスを合同にしダイナミックな運動遊びへチャレンジする。これは、自発性、協同（協働）する意欲や自主性を促すことをねらいとし、他者との心身の違いに気づき、折り合ったり励ましたり励まされたり試行錯誤したりして柔軟な体と巧緻性を身につける。 
	（取組日）令和 8 年 1 月 19 日 ～ 令和 8 年 3 月 9 日 （実施内容）当該期間における取組内容を詳細に記載すること 3学期 計8回 寒さに負けず運動を通して体幹を鍛え心身の成長を自覚できることをねらいとし、ルールのある遊びなども多く取り入れ規範意識や協同、自尊感情など、様々な運動遊びを通した総合的な力、発達を促す 

3	取組概要	(取組日) 令和 8 年 3 月 7 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 保護者との共有。保護者と子どもたちの運動遊びをすることで、園の大切にしたい心身ともに豊かな健康づくりを共有する。	
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
		(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日	
		(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの
(取組日) 令和 年 月 日 ~ 令和 年 月 日			
(実施内容) 当該期間における取組内容を詳細に記載すること 	写真添付 (区HPで公開が可能な写真を添付してください) 活動内容が分かるもの 取組に関するもの		

効果検証報告書（継続事業用）

施 設 名		ルンビニー幼稚園				
教 育 理 念		幼児の心身の望ましい発達を助長し、宗教的情操の涵養をはかり、園内生活を通して協同自主の精神及び善良な生活習慣を養う。				

事業の区分(5領域)		幼稚園教育要領に示された5領域に該当するもの(複数可。最も当てはまるものには◎を選択してください)				
		健康 ◎	人間関係	環境 ◎	言葉	表現
1 事業名		心身ともに健康な身体づくり				
2 事業概要		幼児教育、運動に特化した講師を迎え「健康指導」という名目で運動遊びを指導				
3 対象学級(クラス名) 対象人数		年長あおぐみ18名みどりぐみ17名・年中はなぐみ30名・年少ちゅうりっぷぐみ・16名たんぼぼ組16名				97 名
計 画 時	4 実施体制	取組に必要な環境(人員、事業の遂行に必要な技能やノウハウ等)の保有状況 幼児教育、運動に関して経験豊かで様々な知識能力のある指導者を講師に迎える。季節や天候に関わらず、定期的な指導が受けられるよう園庭、ホールの環境を提供する。				
	事業後 4についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 幼児の発達過程からも、幼児期の遊び(特に外遊び、体を動かす遊び)や多種多様な運動経験は、将来の人としての心身の成長に大変影響力を及ぼすと言われている。幼児の運動に特化した専門の講師による指導から、子ども達の技術だけでない今後一生必要とされる心身の巧緻性の芽生えを促すことができた。				
計 画 時	5 事業のねらい	コロナ禍で生まれたり、就園前を過ごした子ども達は特に孤立環境、室外遊び経験の不足など影響を受けていると思う。そのため、子ども達の体力の低下や運動能力の低下など様々な生きる力の低下が指摘される。当園では、継続的に運動に特化した幼児指導の専任講師を招き、子ども達への心身ともに健康な身体づくりを促したいと考える。				
	事業後 5についての 効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 当園には、地上6メートルの大ホールがあり、気象天候に関わらず子ども達が時間や場所、道具を選ばず思いっきり体を動かして遊ぶ又は運動できる環境がある。これは、やってみたいと思うことがすぐに実現でき、心身ともに自己実現できた達成感を味わうことができるため、子ども達の主体性を育てることができたと思う。				
計 画 時	6 取組の内容	計画スケジュールを含む詳細な取組内容、経験させたい内容等				
		毎週月曜日 30分～1時間 年間36回以上 クラス別(少人数)な運動活動リズムあそび、よじ登り、固定遊具、プールや水遊び、縄跳び、鉄棒、ボール、平均台、マット、かけっこなど巧緻性を促す運動遊び				
		上記のうち、幼稚園教育要領に示された「内容」について、各園で積み重ねてきた取組を発展させた点				
		健康の領域では、いろいろな遊びの中で十分に体を動かす。進んで戸外で遊ぶ。という内容で子どもたちが、自ら考え工夫して遊具を設置したり組み合わせたりしながら、より挑戦に向かおうとする活動が増えた。				
		(継続事業のみ記入)前年度の取組から発展させた点				
		従来、健やかな身の動きを獲得するよう体幹を鍛える運動遊びを取り入れてきたが、本年度は裸足あそびを年間を通して取り入れることによって、四季を感じる体幹を身につけ豊かでたくましい感覚を育てたい。				

計画時	事業後	6についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 専門講師による定期的な指導を受け、子ども達が日常生活の中でこの経験や学びを活かして遊ぼう、展開させようという向上心が高まった。これは、「指導」という場当たりの事ではなく幼児が自ら心身ともに健康な身体作りをしている主体者であるという意識が育まれた。大人がすべて設置したり設定するだけでなく、安全面に配慮しながらも子ども達自らが遊びや運動を発展させることができた成果とする。
	7 環境構成例		安全で見通しの良い環境の中で、子ども達の主体性が生かされるよう「縄跳び検定表」などを作成したり、運動できる道具を日常生活にも配置する。子ども達の運動能力を育む取り組みの中で、大切にしていることは指導時間で運動遊びが完結してしまうのではなく、この経験が日常保育の中であそびや保育者との時間に大いに活かすことが出来る事が本来の力となる。当園では、特に年間を通して「縄跳び検定」とうたい縄跳びの技術向上を促す運動遊びを継続している。これは、健康な身体だけでなく自分で数え、表に記述するという観点から数量、文字への関心。友達と教え合う、応援するなどの観点から協同性、人間関係、言葉。繰り返し練習する中で自立心を養い様々な自分に適した技術への挑戦、ということが出来るので、達成感を抱き自尊感情を育むことが出来る。さらに今年継続事業として、2クラス編成の年長組(去年は1クラス)が合同で行うバルーンを取り入れることにより、合同で行う経験を多く取り入れ一層協働性を育み、様々な他者に出会えるようにしてきた。
	事業後	7についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 幼児期に育てたい10の力に置き換えて考えると、運動遊びの中に技術的な習得だけをねらいにするのではなく、当園の活動のように多面的な育ちの道筋を重要視することで、子ども達の個性に即した様々な成長を見ることができた。
	8 期待される効果児童の姿		取組を通じて期待される児童の姿や効果等 教師との信頼関係を基盤としながら、子どもたちが主体的に遊びへ参加し、身体を開放しのびやかにしなやかに活動できる。また、運動会以後バルーンを保護者を巻き込んだ活動につなげることで、保護者の子ども理解や方針への協力体制が生まれ有意義な関係性を構築することができる。
	事業後	8についての効果・検証	事業実績から推測される効果や改善点等 年齢や発達によりすべてが実現できることもないが、失敗と挑戦の繰り返しを経験し、たくましく成長を促すことができたと思う。大きなけがが発生したことで、今後安全管理と挑戦の折り合いをどう考えていくか課題となる。
	9 効果検証総括		事業を通しての感想、今後の教育・保育に向けて 日本には、四季があり季節ならではの文化がある。身体づくりを通して寒さや暑さ、さわやかさなど体感できる感性を育み健康な体と心をつくる主体者としての子ども。それを支える保育者という関係性が築かれ子ども達のみならず、専任の講師とともに、2クラスのクラス担任が「協働性」を育む活動について共通理解し、PDCAサイクルの中でスキルアップできたように思う。運動遊びを通して何を経験させるか？成功や失敗、葛藤などを繰り返し経験すること、また本年度はさらに一緒に何かを成し遂げるという経験から協働性の学びを深めた。これは、多様化するこれからの社会を生きていくための大切な力の源になると思う。

※必要に応じて、別紙の添付やイラストの活用などにより事業説明を補足しても構いません(別紙は任意様式)。

※幼保連携型認定こども園教育・保育要領における教育のねらいや内容等については、幼稚園教育要領の5領域から構成されていることを踏まえ、本事業では「幼稚園教育要領」とのみ記載しています。